

抄 録

結核専門雑誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose und spezifischen

Tuberkuloseforschung Bd. 85, Heft 3, 1934,

急性多發性關節炎ノ結核性原因ニ就テ

Heinlich Mayrhofer (Wien) : Zur Frage der tuberkulösen Ätiologie der akuten Polyarthrititis.

急性多發性關節炎ノ原因ニ就テハ、今迄種々想像サレタルモ、浸潤スル事ヤ、又風邪ニヨツテ起ル事等ヨリ、微菌ニヨル傳染病ニ非ズヤト考ヘラル、ニ到レリ。最近 Reitter 氏、Löwenstein 氏等ハ急性多發性關節炎ハ、結核菌ニヨルモノナリト考ヘ、而モ患者ノ血液中ヨリ Koch 氏菌ヲ證明セリト云フナリ。

血液像ニ於テハ、Thanhauser, Schilling 及ビ Mattes 氏ノ云フ様ニ急性多發性關節炎ハ、結核ト同様ニ、先ヅ甚シイ白血球増加ト、輕度ノ中性白血球増加アリ (30人ノ患者中 6000 以下ハ僅ニ 5 人ナリ)、淋巴球細胞ハ多クハ 25—30%ノ間ニアリ、特ニ浸出性多發性漿膜炎ニ血液像ハヨク似テル。

急性多發性關節炎ニテ必須ノ症候ハ、沈降速度ノ早クナル事ニテ、病勢ノ輕重ト無關係ニ何レモ 20mm 以上アリ (4 時間目ノ値ノ $\frac{1}{2}$)、著者ノ患者 30 例ニテハ、20mm 以下ハ 9 例アリ。

次ニ著明ナルハ體温ナリ、體温ハ一體ニ高ク、結核ノ間歇推進及ビ肋膜ノ浸出性疾病ニ一致スル、而モ結核性疾患ト同様ニ慢性ニナレバ微熱ニナル。

「ツベルクリン」感受性モ、結核ト同様ニ、發病ノ第 1 日ハ極メテ僅ニ陽性ナルモ、關節ガ次カラ、次ト侵サル、ニツレテ、陽性度ガ甚シクナル、即チ初メ「ツベルクリン」ノ 1/1000 ニテ漸ク陽性ナリシモノガ遂ニハ 1/1.000.000 ノ稀薄液ニテモ陽性ニナル、トキニハ 1/10.000.000.000 ニ稀薄シテモ陽性ニナル事アリ、之等ノ事ヨリ關節ヨリ關節ニ移ル事ハ、丁度肺結核ノ間歇推進ト一致シテル感アリ、而モ「ツベルクリン」療法ガ往々奏效スル事等ヨリ考ヘテ尙更ナリ。

(東京市療、三神抄)

Dürreheim ニ於ケル成人ノ呼吸器外結核症ノ光

線療法ノ知見並ニ治療成績

Fritz Leichtweiss (Baden) : Erfahrungen und Erfolge bei chronischer extrapulmonaler Tuberkulose der Erwachsenen im Höhensolbad Dürreheim.

A. 治療地ノ位置及ビ氣候

一體ニ多少刺戟アル氣候ノ方ガ結果ハ良ク、此ノ點ニ關シテハ Dürreheim ハ最モ適當ナリ、大家ノ説ニ從ヘバ高山氣候ハ始終割合ニ平等テ、光線ガ強ク、冷寒テ、乾燥シ易イ點ガ良イ、此ノ點ハ Dürreheim ノ條件ト一致シテル。肺臟以外ノ結核ニ效アリ。

B. 患者ノ移動ニ就テノ統計

1. 年齢、職業ニ就テハ 20 歳前後ガ最モ多ク、工場労働者ガ多數ナリ。
2. 遺傳的素質ノ有無ヲ見ルニ何レノ患者ニモ殆ンド認メ得タ。
3. 體質モ大イニ關係アレド外界ヨリ働ク要素ニ左右サル、事多シ。
4. 罹病場所ハ關節ガ過半數ナリ。
5. 診断ハ血球沈降速度ヲ主トシテ用フルモ絶對ノ信ハナシ。
6. 肺臟結核ノ併發アル者ニハ Ranke 氏ノ第二期ノ者多シ。

以上ノ諸點並ニ治療方法等ヲ用ヒテ過去 10 年間、肺臟以外ノ慢性結核症ニ就テ、比較的高イ山地及ビ光線ニヨツテ、主トシテ幼若並ニ中年ノ者 504 人 (男 322 人、女 172 人)ノ治療ヲセリ。是等ノ患者ノ農業ニ從事シテ居タ者ハ比較的少ナク、主トシテ工場労働者ナリ、其レ故ニ女子ニアツテハ特ニ煙草職工、飾り職、製本職等ニ從事シタ者ガ多イ。併シ職業的ニ特ニ侵サレタト思ハレル點ハナイ。侵サレタ臟器ニ就テ見テ、何モ遺傳的素因ハ證シ得ヌガ、大部分ハ肺結核患者ノ家庭ニ住ミシ者カ、又ハ家族外ノ肺結核患者ヨリ感染シテ、遂ニ骨結核等ヲ起セル者ナリ。

肺臓以外ニ結核ニ罹患セル者ノ 60.5%ハ肺結核ヲ證明シ得ルモ、是等ハ普通全ク瘰癧形成ヲ來セル者カ、左ナクバ非活動性ノ者デアツテ、主ニ第二期ノ症狀デアアル。所謂第三期結核ト呼バレル者ハ極メテ稀デアアル。夫レ故ニ比較的経過ハヨイ、恐ラク一臟器ニ限ラレタ結核ト云フモノハ極メテ稀ニテ、多クハ肺臓結核ノ或種ノ時期ノモノヲ合併スルナリ。若シ骨、關節ニ限ラレタ結核ガアツテ、診断ヲ誤リ易イ場合ニハ「ツベルクリン」反應ヲ見ル。

是等ノ療法ハ第一ニ日光療法ヲ用フル、分泌物ノ長ク續ク瘰癧ノアル腹膜炎患者ニハ非常ニ奏效セリ。「レントゲン」照射ヲ併用スル場合ニハ 5—10% H.E.D ノ如キ少ナイ刺戟量ヲ用ヒ、總量 60—80% ニテ止ム、之ハ結核性淋巴腺炎及ビ腹膜炎ニ最モ效アリ、最モ注意ヲ要スルハ結核性脊椎「カリエス」ニテ之ハ數例ナレド極メテ僅少ノ量用ヒタリ、「ツベルクリン」療法ハ普通ノ非特異性刺戟療法トナシ使用セズ。

一般療法同様ニ局所療法モ亦用ヒル、即チ結核性腫瘍ハ穿刺スル、瘰癧ニハ沃度「ホルム」ヲ用フル、骨、關節等ハ安靜ト使用ヲ避ケル爲ニ固定スル。

以上ノ様ニシテ著者ハ病的ノ點ヲ氣候ノ變化及ビ一般療法ニヨツテ良イ方ニ轉換セントスルノガ主眼ニテ、可成長ク入院スル様ニセリ、其レ故ニ 4—8 ヶ月位入院スル。斯クシテ 60.6%ハ永久全快シ、而モ全數ノ 14%ハ多年作業可能ナリ。(東京市療、三神抄)

糖尿病ヲ有スル肺結核患者ノ臨牀竝ニ病理

R. Roller (Wien): Zur Klinik und Pathogenese der Lungentuberkulose beim Diabetes mellitus.

1. 著者ハ肺結核患者ニテ糖尿病ヲ有スル 116 例ニ就テ、肺臓所見ノ経過及ビ豫後ニ就テ觀察セルニ、
2. 是等ノ大部分ニ於テハ、肺結核ハ第二次ノ發病セルモノテ、唯少數ノ増殖性型ノモノニ於テハ、糖尿病ノ方ガ第二次ノ發生シテル。
3. 肺結核ノ経過ヲ見ルニ、最初肺結核ガアツテ、次ニ糖尿病ヲ併發セル者ニアツテハ、餘リ急速ノ増悪ハナイ。
4. 糖尿病患者カ肺結核ニ罹患セル者ノ中浸出型ノモノ、病理ヲ見ルニ、皆外部ヨリノ感染ニヨル、彼等ハ作業中糖尿病ニ患ルト共ニ肺結核ニナル者モアルシ、又糖尿病ニナツテカラ、相當ノ日時ヲ經テ、肺結核ニナル者モアリ。
5. 著者ノ經驗ニテハ、糖尿病患者ニテ肺結核ヲ有ス

ル者ニハ「インシュリン」ヲ用ヒテモ餘リ效果ハナイ。寧ロ「インシュリン」ヲ用ヒヨ治療ノ方ガ效果アリ。「インシュリン」ニヨル治療ハ多少生命ヲ延シタヤニ思ハレルノミナリ。(東京市療、三神抄)

老人ノ縱隔竇淋巴腺ガ周圍臟器ノ損傷ニヨツテ生ズル硬結ト崩潰過程

Alfred Arnstein (Wien): Indurative und Zerfallsvorgänge in den mediastinalen Lymphknoten im höheren Alter mit Schädigung der benachbarten Organe.

Ranke 氏等ノ淋巴腺周圍炎ト呼ブモノニテ、

1. 縱隔竇淋巴腺ノ附近ニ生ズル、特種又ハ非特種ノ病氣ノ數的統計ヲ見ルニ、淋巴腺ノ炎衝ヲ起シ、續イテ結締織ニ變化スルモノハ老人ニナル程多シ。
2. 内部カラ淋巴腺ノ活動ヲ起スモノハ多クハ間歇推進的ニ來リ、之レニ結締織組織ノ増加ヲ來シテ治癒ニ向フ。
3. 此ノ新ニ作ラレタル結締織ハ、年ヲ經ルニツレテ漸次萎縮シテ、血行竝ニ淋巴ノ循環障礙ノ爲、硬化スルト共ニ一方又軟化ス。
4. 淋巴腺ノ硬皮化シタモノハ、結締織ニヨル瘰癧ノ様ニ、永久不變ノモノニ非ズシテ、續イテ起ル崩壞ヘノ階梯ナリ、此ノ崩壞ハ組織各個ノ間ノ關係ヲ粗雜ニシテ、一方ニ於テ萎縮ヲ來ス、即チ炭粉又ハ石粉ノ爲ニ、組織ガ其ノ内ニ循環器、神經等ガアルニモカ、ハラズ萎縮ヲ來ス様ナモノテ、年月ノ経過ト共ニ、益々崩壞萎縮スル。
5. 塵埃ノ多イ環境ニ生活スル吾人ハ、自然ニ炭粉其他ヲ吸入スル次ニ肺組織ガ萎縮シテ、老人性肺氣腫ノ状態トナリ、塵埃ノ大部分ハ遊離シテ、肺ノ淋巴管ニ入り、近クノ淋巴腺ニ沈著シテ硬結ヲ作ル。
6. 而シテ、結局結核ノミナラズ、淋巴腺内ノ非特殊性分蛋白質分解産物が再び遊離シ出シテ「アレルギー」狀ニ働ク事モ等閑ニ出來ヌ。著者ノ觀察ハ老人ノ淋巴腺ノ硬結性變化ガ、大イニ意味アルモノニテ一度治癒シタ結核ガ再び活動的ニナル事ハ常見ル、之レト同様ノ事ハ子供ニテハ屢々見ル所ニテ、初期感染又ハ全ク陳舊性ニナツタモノ即チ氣管枝淋巴腺結核ガ乾酪化シテ潜在性ニナツテ、割合ニ良性ト思ハレタモノガ、一度硬結ヲ來シテ、次ニ惡化スル事ハ往々アル事ニテ、高齢者ニモ屢々突然變化及ビ合併症ヲ供ヒ易イ。(東京市療、三神抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Band 68, Heft 4, 1933.

肺結核患者ニ於ケル光線生物學的體質ノ研究ニ就テ

Heinz Thiem: Lichtbiologische Konstitutionsuntersuchungen an Kranken mit Lungentuberkulose.

肺結核患者ノ光線ニ對スル感受性ハ、病竈ノ活動性ノ程度ガ、最モ重要ナル要素ナリ。

(東京市療、矢部升抄)

喉頭結核ノ藥物學的療法ニ對スル密與

W. Schoene: Beitrag zur medikamentösen Behandlung der Kehlkopftuberkulose.

肺結核患者ニテ未ダ喉頭ノ侵サレザルモノニ、1週數回「メントール」油ノ注入ヲ行ヒタルニ、患者ニ良好ナル氣分ヲ與ヘ、非特異性咽喉炎、及ビ特異性過程ニヨル二次的刺戟症狀ニハ好結果ヲ齎セリ。

(東京市療、矢部升抄)

醗酵「ツベルクリン」病竈充血、及ビ非病竈反應

Aleander Komis: Gegorenes Tuberkulin-Herdhyperämie und nicht Herdreaktion.

醗酵「ツベルクリン」ハ、病竈刺戟反應ヲ呈セズ、病竈ノ充血ヲ起シ、病竈ノ癢痕化ヲ起シ、經過ヲ佳良ナラシメル。

(東京市療、矢部升抄)

結核菌株ノ毒力ト酸化還元電位トニ就テ

M. I. Aksianzew: Über das Oxydoreduktionspotential einiger Tuberkelbazillenstämmen im Zusammenhang mit ihrer Virulenz.

結核菌株ノ酸化還元電位ヲ測定スルニ、毒力强キ菌株ハ、B.C.G.ニ比シテ電位高く、成熟菌ハ幼弱菌ニ比シテ、電位高シ。

(東京市療、矢部升抄)

肺結核患者ノ治療ニ於ケル新シキ藥劑及ビ滋養劑ニ就テ

G. Schröder: Über neuere Medikamente und Nahrungsmittel für die Behandlung der Tuberkulose.

特異刺戟劑トシテハ、舊「ツベルクリン」ノ皮下及靜脈内、少量持長法、「メチール、アンチゲン」ノ少量繼續法、及ビ結核菌ノ自家溶解ニヨル Endotoxin ト「ツベルクリン」效果トノ合併法、死菌「ワクチン」法 B.C.G. 「ワクチン」法、「サボン」加培養菌ノ加熱「ワクチン」法、志賀「ワクチン」、A.O.、及ビ他働免疫法トシテノ Thanatophtisin ヲ舉ゲ、非特異性刺戟療法トシテハ、植物性 Disulphanin、臟器劑トシテ脾臟製劑、脾臟製劑ヲ舉ゲ、非病原性抗酸性菌ニヨル Friedmann 氏ノ「ワクチン」ニ言及シ、化學療法トシテハ、金ノ製劑トシテ「サノクリジン」「クリサルピン」、**「アクロジン」**、ヲ舉ゲ、苔鉛劑、水銀劑、沃度劑ヲ舉ゲタリ。藥物療法トシテハ、沃度劑、肝油、「カルシウム」劑ヲ舉ゲ、鎮咳劑トシテハ、「コティン」、「ナルコチン」、「パバベリン」、「ナルセイン」ヲ舉ゲ、祛痰劑トシテハ、鹽化「アンモニウム」、「チモール」、「グアイヤコール」、「クレオソート」ヲ舉ゲ、又氣管内「リビヨードル」ノ注入、「サボン」劑トシテハ「ルビウム」、「シロップ」ヲ舉ゲ盜汗ニハ樟腦酸、吸入劑トシテハ「オイカリプトール」油、心臟衰弱ニハ、「シンパトール」ヲ舉ゲタリ。

榮養劑トシテハ、H.G.S. 減鹽食餌ト「ビタミン」劑トヲ舉ゲ、コレニ「ヒヨリン」ノ合併使用ハ期間ヲ短縮スト述ベタリ。

(東京市療、矢部升抄)

Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 69. H. 1, 1933.

結核病源體證明方法ノ比較研究

L. Fränkel: Vergleichende Untersuchungen zum Nachweis des Tuberkuloseerregers.

近來結核病ノ診斷方法ハ非常ニ發達シタガ、結核菌ヲ證明スルト云フ事實ハ依然トシテ重要ナ事アル。然シ結核菌ノ證明法モ多種多様ニ發表サレテキルガ、著者ハソノ種々ナ證明法ヲ自己ノ實驗ヲ基礎トシテソレ等ノ方法ノ優劣ヲ比較シテキル。結核病源體ノ凡テノ型ヲ確實ニ材料中ニ證明スルタメニハ唯單ニ所謂 Koch ノ Bazillen ヲ見出スルケテハ充分ナ事

ハ Sweeny 等ノ實驗等カラモ明ラカナ事アル。故ニ著者ハ實驗ノタメニ Much ノ Granulafärbung ヲモ行ツタ。

實驗方法ハ材料トシテ Eiter (Kalter Abscess) Harn, Exsudat. 及ビ Sputa ヲ用ヒ、各材料ハ毎週 Zihl-Neelsen 染色法ヲ検査シ、毎當陰性ノモノヲ用ヒタ。特ニ Sputa ハ3ヶ月間精密ニ検査シ、確實ニ菌ノキナイモノヲ選ンタ。斯ノ如ク Zihl-Neelsen 染色法テ陰性ノ材料 Sputa 76, Exsudat, 21, Eiter 6, Harn 5, 合計 108 個ノ材料ヲ他ノ方法ニ依ル菌檢出法比較

試験ニ用ヒタ。即チ、檢出法トシテ、Osol 濃厚塗抹標本、Much ノ Granulafärbung, Antiformin 集菌法、Schiller 氏法、及ビ Hohn ノ培養試験ヲ行ツタ。以下個々ノ方法ニヨル實驗ニツイテ詳細ニ論ジ報告シテキル。

Osol ノ濃厚塗抹染色法ニヨルト、Zihr-Neelsen 染色法テ陰性デアツタ Sputa 76 例中、10 例陽性ノ成績ヲ得タ。Exsudat, Eiter, Harn, ハ依然トシテ凡テ陰性デアツタ。Sputa ノミニ就イテノ陽性率ハ 13.15% 全體トシテ見ルト 9.26% テアル。コレニ依ツテ見ルト Osol 氏法バソノ操作ノ簡便ニシテ且結果ヲ早く知り得ル點ヨリシテ特ニ喀痰検査ニ適シテキルト云ツテ居ル。

Granulafärbung ノ著者ハ先ヅ Granula ト所謂定型的ナ Koch-bazillen ノ關係ニツイテノ在來ノ諸家意見ヲ紹介シ、且自身ノ實驗ヨリ Granula ハ眞性ノ結核病原體ト密接ナ關係ガアルニ違ヒナイト云ツテキル。而シテコノ Granulafärbung ハ Zihr-Neelsen 染色法テ陽性デアツタ 50 例ノ材料ニツイテモ行ツタ所 Granula 發見率ハ 50% テアツタ。陰性デアツタ Sputa 76 例中陽性 3 (3.9%) Exsudat 31 例中陽性 2 (9.52%) Harn 5 例中陽性 1 (20.0%) Eiter ハ 6 例共陰性デアツタ。全體トシテノ陽性率ハ 5.56% (6 例) テアル。コノ結果ヲ見ルト Zihr-Neelsen 染色法テ陽性デアツタ材料ノ方カ陽性率ハ斷然多ク (50% ニ對スル 5.5%) 且、Granula ハ Stäbchenform カラ發生シ、毒力ヲ有シ、且良好ナ状態ノ下テハ再ビ Stäbchenform ニナリ得ル事ガ解ル。

Antiformin 集菌法ニヨルト、Sputa 76 例中陽性 13 (17%) Eiter, Harn, Exsudat ハ依然陰性、全體トシテ陽性率ハ約 12%、本方法ハ特ニ喀痰検査ニ適シテキル。Schleim 及ビ Bronchialsekret ノ多イ喀痰ニ於テ特ニヨイト思ハレル。

Schiller 氏法、實驗ニ際シ Schiller 氏ノ指示通り行ツタニモカ、ハラズ、全部カ陰性デアツタ。故ニ本方法ハ全ク問題ニナラナイ。

Kulturmethode, Sputa 76 例中陽性 36 (47.36%) Exsudat 21 例中陽性 15 (71.43%) Eiter 6 例中陽性 4 (66.66%) Harn 5 例中陽性 3 (60.0%) 全體トシテノ陽性率 53.7% テアツタ。(東京市療、隈部抄)

胸廓成形術ニ際シ麻酔劑トシテノ Avertin 及ビ Evipan.

H. Kleesattel: Avertin und Evipan zur Schmerzbetäubung bei Thorakoplastischen Operationen.

著者ハ 1930 年ニ、Waldhaus Charlottenburg 結核病院ニ於テ行ツタ 100 例ノ thorakoplastische Operation ニ際シ用ヒタ Avertinnarkose ニツイテ報告シテキルガ、本報告ハソノ追加ト共ニ近來市場ニ賣リ出サレタ Evipan-natrium ニツイテノ報告ヲナシテキル。1930 年以來 Ulrici 氏ノ病院ニ於テ行ツタ Avertinnarkose 170 例又 Gollenwald 結核病院ニ於テ行ツタ 130 例ノ新報告ヲ合セテ 400 例ノ Avertinnarkose ノ觀察カ報告サレテキル。ソノ内著者自身ノ觀察例ハ 25) 例テアル。本報告ニ於テ Avertinnarkose ニツイテ特別取り立テ、書ク程ノ新シイ事實ハナイガ、1930 年ニ詳細ニ報告シタ 100 例ノ結果ト、以後ノ 300 例ノ結果ハ全ク一致シテキル。即チ用量及ビ適應症サヘ間違ハナケレバ、全ク危険ナク且凡テ良好ナ成績ヲ示シテキル。用量ハ大體 0.08—0.11 g/kg 體重テアル。次テ著者ハ實際使用ニ關スル詳細ナ注意ヲ述べ且 Avertinnarkose ノ後ノ Nachschlaf ノ全然危険ノナイ事ヲ強調シ、且 Avertinnarkose ニ對スル Weckmittel トシテ Coramin ガ良イト云フテキル。

次ニ著者ハ上述ノ Evipan-natrium ヲ紹介シテキル。Evipan-natrium ハ靜脈内注射ニヨツテ非常ニ速ク作用スル代リ又早く排出サレルノカ特長テ 15—2) 分テソノ作用カ消失スル。注射直後患者ハ非常ニ深イ麻酔状態ニ陥ルガ、呼吸、循環ニ何等ノ障礙ナク、覺醒後何等ノ影響ヲ殘サナイ。Evipan-natrium ニ關シテハ一般外科方面ノ報告ハ多數アル。著者ハ著者自身ノ胸廓成形術ニ際シ用ヒタ Evipan-natrium ノ效果、併ビニ Avertin ト併用ノ結果等ヲ、個々ノ例ニツイテ報告シテ結論トシテ兩者併用モ亦何等危険ノナイ事ヲ述ベテキル。(東京市療、隈部抄)

Avertin, Evipan-natrium 併用ニツイテ

W. R. Glaser und V. Grosse: Zur Kombination der Avertinnarkose mit Evipan-natrium.

著者等ハ Avertin ト Evipan-natrium ノ併用試験ヲ Ranatemporaria (「アマガヘル」) ノ「オタマジヤクシ」ヲ用ヒテ實驗シソノ結果兩麻酔劑ノ Potensierung ハ見ラレズ、唯單ニ Summierung ガ見ラレルニ過ギナイト云フテキル。且著者等ハ本實驗ヲ溫血動物ヲ用ヒテ續行スル積リデアツタガ前論文ノ Kleesattel 氏ノ人間ニ於ル結果カ良好ナ成績ヲ得テキルノテ、最早ソノ

必要ヲ認メズ、中止スル事ニシタト云フテキル。

(東京市療、隈部抄)

古代ニ於ケル肺結核症ノ治療

Hans Moritz: Die Behandlung der Lungentuberkulose im Altertum.

本論文ハ全體ガ九章ニ分タレ、本誌ニ於テハ第三章 Behandlung der Lungentuberkulose マテ書イテアル。即チ

第一章、Einleitung 第二章、Behandlung der Lungentuberkulose 第三章、Behandlung der Lungentuberkulose 第四章、Diätetische Behandlung der Lungentuberkulose 第五章、Physikalische Behandlung der Lungentuberkulose 第六章、Klimatische Behandlung. 第

七章、Äußere Bedingungen für die Behandlung. 第八章、Schlußbetrachtung. 第九章、Literaturverzeichnis.

テアル。第一章ニ於テ著者ハ極ク簡單ニ、肺結核病ノ歴史ヲ書イテキル。第二章以下ハ原著ニツイテ讀ムベキモノヲ抄録ニ適シナイ。(東京市療、隈部抄)

カール、ジーグフリード氏追悼文

Heinemann-Grüder: In memoriam Dr. Karl Siegfried. カール、ジーグフリード氏ハ1933年7月3日 Badenニ於テ不慮ノ死ヲ遂ゲタ。Grüder氏ハ極ク簡單ニ Siegfried氏ノ傳記及ビソノ業績ヲ記シ衷心ヨリ哀悼ノ意ヲ表シテキル。(東京市療、隈部抄)

Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 69. H. 2. 1933.

虚脱療法ナシニ消失シタ結核性及ビ非結核性空洞ニ就テ

Ernst Müller (Köln): Über das Verschwinden von Lungen-Kavernen tuberkulöser und unspezifischer Ätiologie ohne Kollapstherapie.

今日マテニ文献ニ見ル處テハ50名以上ノ報告者ニヨリテ300例以上ノ結核性空洞ノ自然消失ガ報セラレテキル。其大部分ハ數ヶ月テ消失シ中ニハ數週テ消失シタモノサヘアル。此ノ如キ例ノ大多數ハランケノ第2期ニ屬スルモノテ、第3期ニ屬スルモノハ極ク少數ニシカ過ギナイ。空洞ノ大イサハ其ノ豫後ニトツテハ個體ノ Immunitätslageニ比スレバ遙カニ重要ナモノデアナイ。自然ニ閉鎖シタ空洞ノ大多數ハ鎖骨下ニ存スル早期空洞テ、之ハ早期浸潤ノ崩壊ニヨリテ生ジタモノアル。上葉ニ於ケル空洞ノ自然消失ガ下葉ニ於ケル夫レヨリ著シク多數デアルト云フノハ下葉ニ空洞ヲ生ズル事ガ少ナイノニ歸因スルモノラシイ。著者ハ自然ニ消失シタ空洞ノ3例ヲ報ジテキル。其中2例ハ2ヶ月以内ニ1例ハ3年ノ經過ヲ以テ消失シタモノアル。此ノ如キ空洞消失ノ現象ハ肺膿瘍、肺壞疽ニモ見ラレル處テ今日マテニ著者ハ45例ヲ發見シテキルガ此處ニハ更ニ3例ヲ追加シテ居ル。何レモ肺膿瘍ニヨツテ出来タ杏實大鶏卵大ノモノテ姑息ノ治療ニヨツテ消失シタ。其中1例ハ葡萄球菌ニヨル敗血症テ兩側肺ニ多數ノ空洞ヲ生ジタモノデアツタ。

(東京市療、池上抄)

1929—1932年ノ臨牀ニ於ケル結核菌證明

Erwin Saegler: Tuberkelbazillen Nachweis in der Klinik von 1929—1932.

1929年ヨリ32年ニ亙リ Waldhausscharlottenburgテ行ツタ成人、小兒ノ各種材料約3000例ヨリ得タル結核菌證明ノ成績報告デアル。喀痰ヨリノ證明ニ當ツテハ喀痰ノ殆ドナイモノテハ沃度加里等ヲ與ヘテ喀出ヲ盛ンニシ或ハ咽喉頭ヨリ拭出シタ材料ニヨル検査ヲ試ミタ。小兒等テハ胃ヨリ早朝空腹時ノ内容ヲ採リ之レヨリ「アンチフォルミン」集菌法及ビ培養ニヨツテ菌ノ證明ヲ試ミタ。又「レントゲン」ニヨツテ結核竈ガ存シテラ是等ノ検査ノ結果菌(一)ノ時ニハ糞便ヨリ證明ヲ試ミタ、喀痰ノ検査ハ塗抹染色標本及ビ之ト平行シテ「アンチフォルミン」集菌法ヲ行フ。此ノ兩法ヲ菌(一)ノ時ニハホーン氏法ニヨル培養試験ヲ行フ。其ノ検査ノ結果ハ次ノ如クデアル。成人—菌(+)デアツタモノ、(喀痰—塗抹染色標本2140、「アンチフォルミン」法780、培養法16(109中)。咽喉頭ヨリノ塗抹染色標本28、同培養1(26中)。胃内容—「アンチフォルミン」法22培養法8(40中)。糞便—「アンチフォルミン」法8。)小兒—喀痰43例中塗抹染色テ(+)26。「アンチフォルミン」法テ(+)14。培養法テ(+)2デアル。此ノ中14例ハ幼兒、29例ハ學童ニ屬スル。此ノ外、尿、肋腔穿刺液、腰椎穿刺液、淋巴腺内容ノ穿刺、關節腔穿刺液、膿瘍瘻管、耳ヨリ得タ膿等774ニ就テ菌證明ヲ試ミ420ノ陽性成績ヲ得タ。更ニレウエンスタイン氏法ニヨル流血中結核菌ノ證明ヲ行ツタガ成人ニ於テハ血行性結核114例中2例(2%)陽性ニ過ギナカツ

タガ著明ニ進行セル孤立性肺結核症テハ之ニ反シテ77例中14例(18%)陽性デアツタ。又小兒ハ種々ノ結核型54例中1例モ陽性ヲ認メズ、是等ノ結果カラ臨牀的ニ云フ處ノ血行性結核、即チ菌ガ血行ニ入ルコトニヨリテ起ル、唯1回ノ而カモ短時間ニシテ終ルSchüb或ハ反覆スルガ瞬間的ノ菌血症ヲ起ス遷延性血行性轉移等ニ於ケルヨリモ孤立性結核ノ末期ニハ之ニ反シテ菌ガ永續的ニ流血中ニ存スルモノ、如クテアル。更ニ24例ノ開放性肺結核症テ臨牀的ニ泌尿生殖器系ノ健全ナルモノ、中7例ノ尿ヨリ菌ノ培養成績陽性デアツタ(此ノ中2例ハ後ニ剖檢ノ機會ガアツタガ組織學的ニ腎結核ハ見ラレナイ)。之ハ腎臟ノ罹患ニヨルモノテナク、却ツテ菌ニ對スル特別ノ通過性ニヨルモノテアルト信ズル。(東京市療、池上抄)

相談所ニヨル結核患者ノ發見

Fritz Hoth(Bremen): Auffinden von Tuberkulösen durch die Fürsorge.
結核性疾患ヲ有スルモノテ未ダ bewusstトナツテキナイモノヲ Braeuning ハ Tbc inappercepta ト名付ケタ。是等ハ一定ノ住民群ノ Reihenuntersuchung ヲ行フカ、或ハ相談所ニ於テ開放性結核患者ノ周圍ニアル人々ヲ診察スル事ニヨリテ發見出來ル。著者ハ1931—1932年ノ間ニブレーメンニ於テ是等ノ診察ヲ行ツタノテアルガ、先ツ周圍検査(umgebungsuntersuchung)ノ結果768例ノ開放性結核及ビ465例ノ閉鎖性結核ヲ觀タ。前者ノ中177例即チ1/5ハ相談所ニ於テ始メテ診定サレタモノテ是等ノ患者ハ相談所ノ機能ガナカツタナラバ著シク發見ガ晚レタデアラウ。此ノ177例中143例即チ大多數ハ疾患ヲ自覺セザリシタメ、醫師ヲ訪フ機會ヲ持タナカツタモノテアル。之ハ即チBraeuningノTbc inapperceptaニ該當スルモノテアル。又閉鎖性活動性肺結核456例中274例、即チ半数ハ相談所テ始メテ發見サレタモノテ其ノ中230例ハ醫師ヲ訪フ機會ガナカツタ。感染ノ危險ニ曝サレテ居ル健康者テ吾々が久シク知ツテキルモノニ就テ1931年度ニハ3907人、1932年度ニハ4514人検査ヲ試ミタ、其ノ各年ニ診タ一部宛合シテ6000人中、其ノ一部ハ屢々検査ヲ試タノテアルガ24例ノ開放性、85例ノ閉鎖性結核ヲ發見シタ。之ヲ1000人單位トシテ見ル時ハ前者4、後者14、トナル。是等ノ事カラ開放性結核患者ノ周圍検査及ビ閉鎖性結核ヲ有スル患者ノ連續的觀察ハ多數ノ開放性、閉鎖性結核患者ノ發見ヲ齎ス

ト云フ事ヲ知り得ル。此ノ中ニハ輕症者モアルガ重症者モ稀テハナイ。重症者ヲ速ニ發見シ、之ヲ家族ヨリ隔離スル事ハ結核防止上重要ナ問題デアル。Geißerノ見解ニ反シテ開放性結核患者ノ周圍検査ヲ唯1回ニ限ル事ナク最初健康ト見ラレタ人々ノ連續的觀察ハ必要ナ事デアル。更ニ著者ハReihenuntersuchungノ成績ト、教師及ビ乳兒看護婦ニ就テ行ツタ經驗ヲ報告シテキル。(東京市療、池上抄)

古代ニ於ケル肺結核ノ療法

Hans Moritz: Die Behandlung der Lungentuberculose in Altertum.

本編ハ前號ヨリ續イタ終編テ其ノ内容ヲ食餌、物理的、氣候、各療法及ビ治療ノ外的要約、總括按ノ各項ニ分割スル。食餌療法、古代ノ醫人ニトツテ最モ重視サレタモノデアル。咯血ニ對シテハ之ヲ抑制スルタメニ患者ノ狀態ガ許スナラバ2日間嚴重ナ斷食ヲ行ハシメタ。之ニハ2ツノ目的ガアル、即チ體液ヲ少クシテ血液ノ濃縮ヲ計ル事ト、嚥下、消化等ニヨル有害運動ヲ避ケテ破損血管ヲ保護スルコトデアル。3日目カラ冷イ飲物ニ收斂作用アル藥草汁ヲ混ジタモノガ與ヘラレ、夫レヨリ先ハ少量ヨリ易消化性食品ガ注意深ク與ヘラレル。是等ニハ沒食子、或ハ栝榴ノ實ノ粉ガ混セラレタ。蜂蜜ハ榮養價ガ高イタメニ衰弱シタ患者ニ好ンテ用ヒラレ藥物トシテハ各種ノ咳嗽ニ應用サレ、食物トシテハMulsumノ形テ知ラレテキル。乳ハ肺結核ノ治療ニハ最モ屢々使用サレタモノテ徹底的ノ乳療法ナシニハ治療困難ト信セラレタ。人、牛、山羊、驢馬乳ガ主トシテ利用サレタ。其他卵ニ雄鷄ガ賞用サレ、各種ノ魚肉及ビ獸肉殊ニ鳥肉ハ柔テ消化容易ナルタメ最適トサレタ。又古代ニ於テハ臟器療法ノ曙光が見ラレル。即チ呼吸困難、喘息ニ對シテハ狼肺ノ粉末ヲ肺癆ニハ牡鹿ノ肺ニ蜂蜜ノ混セラレタモノガ用ヒラレタ如キテアル。野菜、穀物一葱、韭、ノ如キハ古代ノ埃及、メソポタミアノ時代カラ知ラレ、莢豆類モ榮養、治療ニ盛ンニ用ヒラレタ。果實栝榴、棗耶子、無花果ノ實ガ用ヒラレ、殊ニ有熱患者ニトツテハ果實ハ有效ナ食餌トサレタ。飲物啡珈茶ハ古代ニ於テハ未ダ知ラレテキナイ、賞用サレタモノハ、水、酒、Mulsum麥湯等デアルガ酒ハ結核患者ニハ用ヒラレナカツタ。

理學的療法、止血ノ目的及ビ高熱者ニ冷電法ガ行ハレタガ長ク帶用スル事ハ不可トサレタ。軟膏ヤ油類ヲ

塗ル事モ行ハレタ、殊ニ薑油ハ身體ヲ冷却セシメ、炎症ヲ輕快セシムル尤ナルモノトサレタ。併シ理學的療法ノ大部分ヲ占ムルモノハ運動療法テアル。之ニハ他動、自動ノ運動ヲ分ツガ病期ニヨツテ適シタモノガ用ヒラレル。安靜療法、他動運動テ輕快シタモノハ自動運動ヲ行フ、即チ輕イ體操、規則的ナ散步。是等ハ輕快ト共ニ次第ニ其ノ範圍ヲ擴張シ終ニハ「スポーツ」、水泳、騎乗ニ迄發展スル。入浴ハ10日ニ1度位テアルガ輕快スレバ1日3回位行ハシム。

治療ノ外的要約一咯血ニ對シテハ安靜ヲ保タシメ、談話、運動ヲ禁ズ、咳嗽ヲ抑制スルタメニ淺表呼吸ヲ行ハシメ病室ヲ涼シクスル、又精神的ニハ患者ノ意識ヲ他ニ轉向セシムル様ニスル。

總括考按一患者ガ咯血テ始ツタ場合ニハ先ツ其ノ周圍ヲ去ツテ適當ノ風土ニアル療養所ニ入り醫師ノ監督ノ下ニアラネバナラス、其處テハ1週ヨリ1ヶ月ニ互ツテ食餌療法が行ハレル、重症ノ場合ニハ臥牀安靜、咯血ガ止ツタナラバ潰瘍ノ清掃ト乾燥ヲ齎スベキ治療ガ試ミラレル、此時乳ハ最重要ナモノトサレテキル、治療ハ治癒機轉ガ充分ニ進歩シ最早、再發、咯血ガ起ラヌト信ゼラル、迄續ケラレル。次テ種々ノ運動療法ガ試ミラレタ。最近100年間ニ醫學ノ汎ユル部門テ著明ナ進歩ヲ示シテ居リ外科療法ニヨツテハ疑ナク大ナル効果が達セラレ、又特殊療法ノ領域ニ於テモ多少ノ認ムベキ効果が見ラレル、然シ乍ラ結局ハ結核ハ全身疾患デアツテ大量殺菌療法 (Therapia sterilisans magna) ハ今日尙ホ意ノマ、ニナラナイト云フ結論ニ達スルノテアル。科學的進歩ハ結核ノ防衛ニ對シテハ何等著明ナ變化ヲ與ヘテ居ナイ、今日尙ホ吾々ニトツテ適用サル、第一義ハ自己ノ健康ト生活法ニ注意スルト云フコトテアル。古代ニ於ケル結核ノ治療ガ現代ノ夫レニ比シテ幾何ノ隔リガアルカ、頗ル相類似シテキルノヲ認メルノテアル。此ノ事ハ吾々ニヒホクラテス、ガーレンノ業績ヲ一層ヨク把握シ彼等ニ正シキ理解ヲ深メル必要アルコトヲ促スモノテアル。吾々

ハ古代ノ先覺者ノ教訓カラ學ビ彼等ノ經驗ヲ現代ノ進歩ト結び合セテ新シキ有效ナル治療術ヲ形成セネバナラス。

(東京市療、池上抄)

獨逸健康相談所集會

Deutsche Gesundheitsfürsorge Tagung. Eisenach 22—24 Sept. 1933. 報告者ハ F. Redeker (Berlin) 講演トシテハ次ノ3ツアリ。

1)、Rassenhygiene u. Tbk-Bekämpfung. (F. Ickert-Stettin) 之ニ對スル討議ハ Bruno Lange (Berlin) Lydtin (München) Petruschky (Danzig). Noack (Hohegeiß) Schult (Hamburg) Schröder (Schönberg) ニヨリテ行ハル。

2)、Tuberkulose u. Arbeitslage. (Denker-Berlin). 之ニ對スル討議ハ Steinmeier (Görbersdorf) Straub (Göttingen) ニヨリテ行ハル。

3)、Die Abgrenzung der Indikation zu den verschiedenen Verfahren der Kollapstherapie. (W. Kremer Beelitz)

虚脱療法ニヨル治癒機轉ニ次ノ3アル即チ、

a)、罹患肺ノ安靜、b)、罹患肺ニ招來サル、血液、淋巴ノ鬱滯、c)、罹患肺ノ容積縮小、其ノ結果トシテ空洞ヲ縮小シ且ツ瘢痕萎縮ヲ促進セシム。人工氣胸ノ際ニハ罹患肺ノ安靜ハ充分テナイ、高壓ニヨラザル限り機械的ニモ機能的ニモ呼吸作用ヲ營ム、病竈ガ表在性ニ存スル時ハ肋膜癒著ヲ來シ易イ故ニ氣胸ヲ行フ、増殖性、硬化性ノモノニハ良好テアル、人工氣胸ノ永續效果ハ林檎大ノ陳舊空洞ニ對シテハ良好テナイ、肋膜腔ガ完存シテモ此場合成形術ヲスル、肺炎成形術ノ如キ部分成形術ヤ充填法ハ全成形術ノ禁忌ノ場合ニ用フル、氣胸ノ補助手術トシテハ部分成形術ガ好適テアル、下葉ニ病竈アル場合或ハ人工氣胸中下葉ニ癒著ヲ來ス如キ場合及ビ氣胸ヲ中止スル時ニハ横神捻除ヲ行フ、併シ上葉ニ對シテハ其處ニ營マレル機轉ガ滲出型テアルト、増殖型テアルトヲ問ハズ、寧ロ有害テアル。

(東京市療、池上抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 69, H. 6, 1934.

葡萄膜網膜及ビ橋ニ於ケル結核症ノ治癒性

L. Heine: Die Heilbarkeit der Tuberkulose in Uvea, Retina und Pons.

眼結核症ノ最モ初期ニ認メラル、紅彩炎ノ治癒性ハ363例ノ觀察ニ於テ、固定的ニ視力障碍ヲ起シタモノ

ハ $\frac{1}{2}$ ニ過ギズ又生存期ノ短縮ガ認メラレナイ事實カラシテ立證セラレル。脈絡膜ニ關シテモ同様ノ關係ガアル。網膜ノ弧在性結節ハ25年間ニ20例觀察セラレタガ、之レモ亦視力ヲ害スル事ハ稀レデアリ、死期ヲ早メル事モ無イ。

最後ニ定型的ノ橋症状ヲ呈シタル病例ガ 26 アル、ソノ半数以上ハ結核症ニヨルモノデアアルガ、内 2 例ハ死亡シタケレドモ他ノ多数ハ順調ナ治癒経過ヲ取ツタ。

(東京市療、柴田抄)

矽肺ノ診斷竝ニ臨牀的鑑別ニ就テ

Kurt Gutzeit: Zur Diagnose und Klinischen Beurteilung der Silikose.

コノ研究ハ片麻岩ノ破片ニヨツテ起ル矽肺症ヲ救済ノ義務ナル業務疾病ノ種目ニ追加スル様ニ法規ヲ擴張センガ爲ニ行ツタモノデアアル。花崗岩工ノ健康狀況ハ片麻岩工ノ夫レヨリモ良好デアアル。片麻岩ノ硅酸含量ハ 91—95% テアツテ無害ノ陶土ハ極メテ微量シカ含マレテ居ナイ。花崗岩ノ硅酸量ハ區々デアツテ 10—72% ヲ上下スル。米國ノ花崗岩工場ニ於ケル疾病統計テハ無害性ノ肺變化ヲ起スモノガ 6% ニ過ギナイト云フ。

(東京市療、柴田抄)

肺結核症ニ於ケル他覺的豫後

H. Schoenemann: Die sogenannte objektive Prognose bei Lungentuberkulose.

患者 70 名ニ就テ研索シタ、赤沈ハ 1 時間 100mm 以上ノモノハ總テ死亡シタ、又續イテ値ノ上昇スルモノモ同様デアアル、然シ赤沈値ノ低イモノガ必ズシモ輕症患者テハ無ク、又高イモノガ全然治癒シナイトハ云ハレス。血像中色素量 60% 以下ノ者ハソレガ大出血ニ因ラザル限り間モナク不良ノ轉歸ヲ見ル事ハ疑ヒガ無イ。屢々 100% 以上ノ高値ヲ示スモノガアルガ、之ハ慢性ノ呼吸困難ノ結果デアアルノガ多ク從ツテ好徵テハナイ。赤血球像テハ肺結核ニ特殊ナ變化ハ無イト考ヘル。白血球數ハ 3000—20000 ノ間ヲ上下スル、1 萬以上ノモノハ稀レデアアル、大ナル數値ハ治癒傾向ノ際ニ認メラル、ガ小數値ノモノモ亦同様デアアル、シカシ雙方共ニ進行性ノ場合ニモ見ラレルコトガアル。

「エオチノフィリー」ハ 12% 以上ノモノ 2 例ヲ見タガ毎常良好ナル徵ダトハ云ハレナイ。淋巴球 10% 以下ハ不良豫後ヲ示ス事ハ確實テ 40% 以上ハ良好ト認メテ可、又連續検査テ淋巴球増加スルモノハ良、減少スルハ不良デアアル、中性白血球ハ 26—90% ヲ上下シタ、Stabkernig ノモノ、増加 10% 以上ニ及ブモノテ治癒シタモノハ 1 例モナイ、幼弱細胞ガ現ハレテ 5% ヲ越エルト致死ノ徵デアアル。要約スルト白血球像ハ他ノ研査法ヨリモ優レタ洞察ヲ與ヘルモノト云ヘルガ、決定的ノ豫後ヲ知ルニハ稀レニ見ラレル所ノ極端ナ値ノミガ役立ツタケデアアル。體温ニ就テハ新知見ハナイ。絶對安靜時ノ脈搏ノ意味ガアル、安靜時ノ脈搏 120 以上ハ不良ノ徵テ體温ト適合セヌ場合殊ニ然リ、之レニ反シ 60—70 ハ良好候デアリ、少ナクモ急劇ナル経過ヲ取ル様ナコトハ無イ。

(東京市療、柴田抄)

ポーランドニ於ケル對結核事業

W. Ekhardt: Die Bekämpfung der Tuberkulose in Polen.

ポーランドテハ結核症ニ對スル組織的ノ防禦事業ハ歐洲大戰直後ニ創メラレタ。之ヨリ先ニ最初ノ國民療養所ハ 1874 年ニ Mienia ニ設ケラレテ居ル、私立ノ結核豫防協會モ大戰以前カラアル、第一ノ結核相談所ハ 1908 年ニ Lemberg ニ置カレ次テ 1909 年 Warschau ニ出來タ、戰爭中ハ結核死亡數ハ頓ニ上昇シテ歐洲各國中ノ最高ニ達シ 1919 年カラハ漸時減少シタ、1932 年ニ公安省ガ設立セラレテ始メテ結核事業ガ統一セラレタ。ソノ組織ノ一斑ヲ云フト、最高機關ハ國民結核豫防聯盟デアツテ一般ニ對シテハ市ノ衛生課テ實施スル、コレハ病院療養ノ結核病牀ノ大部分ヲ支配シ同時ニ相談所ヲ持ツテ居ル。政府ハ單ニ之ヲ監督スルノミデアアル。現今最モ力ヲ注イテ居ルノハ結核相談所ノ擴充デアアル。

(東京市療、柴田抄)

Zeitschrift für Tuberkulose, Band 70, H. 4, 1934

フリードマン氏菌

R. Brinkmann: Der Friedmannbazillus.

著者ハ Friedmannbazillus ニ就テ試験ヲ Schröder ノ所テ彼ノ指導ノモトニ行ツタ。

Friedmannbazillus ノ仕事ハ今日迄ノ業績ヲ見ルト明カニ 3 ツノ時ニ分ケルコトガ出來ル。

第一期ハ 1914—1918 年ニ行ハレタモノデアツテ此時代ニハ菌ノ病原性ハ温血動物ヲ以テ試験セラレテ居

タ、而シテ動物通過ニ依ツテハ菌ノ病原性ヲ高メルコトハ出來ナカツタ。

第二期ハ 1922—1924 年ノ間ニ行ハレタモノデアアルガ此時代ニハ菌株モ種々ナ種類ノ菌株ガ用ヒラレタ、而シテ色々ナ種類ノ試験ガ行ハレタガ然シ結核發生ニ就テ異論ノナイ試験ハ行ハレナカツタ。

第三期ノ試験ハ 1931—1933 年ノ間ニ行ハレタ著者ノ仕事デアアル、之レニハ三株ノ菌株ヲ用ヒタガ此冷血動

物菌株ノ發育溫度ハ非常ニ廣ク22°—37°ノ間テアル、此事ハ眞正結核菌ガ最モ良キ培養條件ノモトニ於テモ僅カノ生活力シカ有シナイコトニ比較シテ甚シイ相違テアル、温血動物ヲ用ヒタ試験テモ使用シタ菌株ヲ稀ニハ再ビ培養スルコトハ出來ルガ眞正結核菌ヲ得ルコトハ決シテナカツタ。又動物ヲ通過サセルコトニ依ツテ毒力ヲ増加セシムルコトハ出來ナカツタ。冷血動物ヲ用ヒタ試験テハ使用シタ菌株ニ尙ヨク生存シテ居テ分離培養ヲナスコトガ出來タガ然シ此菌株ニ依ツテ結核症ト確定ス可キ病變ヲ起スコトハ出來ナカツタ。菌株ノ種類ニ就テハ最初ノ試験ニ用ヒラレタ、I菌株ハベルリンノ水族館ノ水龜カラ得タモノデアツテFriedmann自身ハ人型菌トシテ記載シテ居ル。

第二期ノ時代ニ用ヒラレタ菌株IIハ文獻ニヨレバ接種材料トシテ造ラレタモノデアハナイガ然シ試験用トシテハ利用セラレテ居タ、其應用ニ就テハ判定ヲ下スコトハ出來ナイガ然シ其結果ヲ見レバ重要ナルモノデアハナイ。

第三期ノ現在用ヒタ菌株ハFM-Pulverカラ培養シタモノ、Friedmannimpfstoffノ「アンプレー」カラ培養シタモノ、或ハ之レヲ注射シタ部位ノ膿汁カラ純培養シタモノ等デアアルガ陸龜ニ接種シテ全ク非病原性デアアルコトハ他ノ諸氏ト共ニ疑ヒナク認メルモノデアアル。Friedmannハ常ニ眞正ノ冷血動物結核菌ガアルト云フ事ヲ主張シテ居ルガ然シ彼ノ著書ノ中ニハ彼ノ主張ヲ證明スル様ナ發表ハ見當ラナイ。

(東京市療、小林抄)

獨逸ニ於ケル現今ノ流行病期ノ結核ノ豫防

Alfred Hofbauer-Flatzcek: Die Bekämpfung des Tuberkulose in der gegenwärtigen Epidemiephase in Deutschland.

若シ結核症ガ獨逸ニ於テ所謂第二ノ地方病トシテノ時代ガ來タナラバモット新シイ文化的ナ方法所謂社會衛生學的豫防法ガ行ハレ結核病患者ハ自然淘汰ガ行ハレルノデアハナイダラウカ、而シテ結核症ハ積極的ナ醫學的秩序アル施設例ヘバ結核相談所等ノ施設ニ依ツテ次第ニ減退シ途ニハ消滅スルデアラウ。

結核感染ノ場合身體中ニ於ケル結核菌ノ作用ニ依ツテ其將來ハ定マルモノデアアル。勿論大量感染及ビ重複感染ノ意義ニ就テノ考ヘニ變リハナク、又實際夫レガ結核豫防ノ眞ノ規矩トナル可キモノデアアル、成人ノ結

核ノ大多數ハ小兒期ノ結核感染ガ増悪シタモノカラ起ルモノデアツテ結核菌ノ最初ノ附著ニ依ツテ起ルモノデアハナイ。

多クノ地方テハ小兒期ノ感染ガ非常ニ減少シタ從ツテ「ツベルクリン」陽性ノ價値ガ減少シタカノ様ニ見ヘル。小兒期ノ感染ノ減少ガ起ルト同時ニ現在ノ獨逸ニ於テハ青年及ビ成人ニ後期ノ初期感染ガ地方病的時期トシテ起ツテ來タガ之レハ小兒期感染結核ノ増悪ト共ニ重大ナル意義ヲ有スルモノデアアル。

結核症ノ歴史ヤ流行病學ノ研究ハ通常ノ結核豫防ニ多クノ根據ト便宜ヲ與ヘタ。

考ヘノ上カラ云ヘバ絶對的ノ Expositionsverhinderungガ要求セラル可キデアアルガ人工的優生學的豫防ニハ全力ヲ盡サナケレバナラナイ。

(東京市療、小林抄)

學生結核相談所ニ於ケル經驗及ビ其成績

E. Saupe, K. Kriegel und K. Meiser: Erfolge und Erfahrungen in der studentischen Tuberkulosefürsorge.

著者ハ獨逸ノ學生ト結核患者ニ就テ行ツタ治病成績ヲ報告シテ居ル。

結核疾患ノ疑ヒノアル學生504名中501名ガ結核患者トシテ治療所ニ收容セラレタ、其中478名ガ肺結核患者デアツテ其中63例ハ結核性合併症ヲ有シテ居タ、19例ハ肺以外ノ他ノ臟器ノ結核症デアツタ、他ノ4例ハ全ク誤診デアツテ結核性ノモノハナカツタ。治療ヲ行ツタモノ、中治癒シタモノ、或ハ徵候ハ全ク消失シナカツタガ然シ續イテ仕事ヲシ或ハ勉學スルコトノ出來ル様ニナツタモノハ501例ニ對シテ84%デアツタ。

職業或ハ學業ヲ中止シタモノハ5.4%、尙患者トシテ收容セラレテ居ルモノガ7.0%、尙人工氣胸ヲ繼續ハシテ居ルガ然シ働キ得ルモノハ3.4%、死亡シタモノハ5.0%デアツタ。

人工氣胸ヲ行ツタモノハ26%、横隔膜神經捻除ヲ行ツタモノハ10%、胸廓整形術ヲ行ツタモノハ3% Plombierungヲ行ツタモノ1%デアツタ。

治療所ニ在所シタ期間ハ1年以内ノモノカラ8年ニ及ブモノモアツタガ2年及ビ3年以上在所シタモノガ最モ多カツタ。

或ル一定ノKlimaガ確實ニ卓越シテ居ルト云フ所モナカツタガ同時ニ又高山ノ治療所ノ價値ガ少ナイト

云フコトモ出来ナカッタ。結核性或ハ他ノ合併症ニハ好影響ヲ與ヘタ、特ニ空洞ノ消失或ハ縮小及ビ一般衛生的生活状態ニハ好影響ヲ與ヘタ。

(東京市療、小林抄)

胸腔鏡ノ改良ニ就テ

Julius Sebestyén: Über eine Modifizierung des

Zeitschrift für Tuberkulose. Bd. 70, H. 5, 1934.

狼瘡ノ治療竝ニ其成績批判

Carl Fr. Funk: Zur Lupusbehandlung, gleichzeitig Kritische Bemerkungen zu den Ergebnissen (Aus dem Krankenhaus für Hauttuberkulose, Heilstätte Müncheberg/Mark. Chefarzt: Dr. Carl Fr. Funk) 狼瘡ノ治療ニ際シ、最良確實ナ成績ハ、臨牀上特殊療法ニ依ツテ得ラレル。

全身療法トシテハ、光線及栄養療法ガ確實ナ方法デアアル。

局所療法トシテハ、外科的療法即切除法、絞捻電氣切除法ガ最モヨク用ヒラレル。併シ乍ラ Finsen 及 Kromayer ノ光線療法及腐蝕膏療法ハ専門家ニ依ツテ尙依然トシテ主張サレテキル。從來本病ニ對シテハ何等選擇ノナ又規則ノナ治療法ハナカッタ。

注意深イ治療ヲ施シテモ再發カ起ル。從テ再發症狀ヲ初期ノ内ニ止メル爲ニハ、治療後時期的ニ後觀察ニヨリ監督シナケレバナラナイ。(東京市療、黒丸抄)

結核症ノ經過ト甲状腺機能

O. Schedtler: Tuberkuloseablauf und Schilddrüsenfunktion. (Aus der Neuen Heilanstalt für Lungenkranke in Schömberg. Chefarzt: Dr. G. Schröder, und dem Sanatorium Sonnenblick in Marbug/L. Direktoren: Prof. Schwenkenbecher und Prof. Klapp)

家兎及天竺鼠テハ、甲状腺ヲ切除スルト、結核感染ヲ或程度迄弱メル。コノ作用ハ家兎テハ睾丸切除ニ依ツテ起ル所ノ結核症ノ經過ヲ延引スル作用ヨリハ弱イ。結核天竺鼠ニ Thyroxin ヲ與ヘルトソノ結核症ノ經過ヲ早メル。

人體ニ就テ臨牀的ニ多クノ材料ニ就テ觀察スルト、甲状腺機能ト、結核症成立竝ニ其經過ノ關係ニ於テ規則的ノ關係ヲ證明出来ナイ。

結核症成立ニ際シ、結核症ノ經過ニ對シテ甲状腺機能不全ノ状態ハ何等ノ影響ヲモ與ヘルモノデハナイ。

Thorakoskops.

著者ノ改良シタル胸腔鏡ニ就テ述ベテ居ル、之レハ胸腔内ノ診斷ヲ用フト同時ニ手術ヲ行ヒ得ルモノデアアル、即チ最初ニ槓杆ヲ閉ジテ胸腔内ニ挿入シ内部ヲ診斷シテ其マ、槓杆ヲ開イテ癒著ヲ剝離スル等ノ手術ヲ行フコトガ出来ルモノデアアル。(東京市療、小林抄)

結核症ノ Thyroxin 療法ハ尙未ダ確實ナ基礎ヲ缺クモノデアアル。(東京市療、黒丸抄)

月經時ノ結核毒素作用ニ對スル藥物ノ影響

Heinz Kriech: Über medikamentöse Beeinflussung tuberkulotoxischer Symptome während der Menstruation (Aus der Medizinischen Klinik Tübingen. Vorstand: Prof. Dr. Otfried Müller).

著者ハ結核症ノ或ル型(Beautés phthisiques)テハ、月經時ニ著明ナ結核毒素作用トシテ、規則的ニ體温上昇ヲ來スコトヲ報告シ、且ツ之ニ良效アルノハ、交感神經ヲ抑制スル藥物 Gynergen デアルコトヲ證明シタ。

(東京市療、黒丸抄)

不完全氣胸ノ成績竝ニ經驗

Max Schlosser: Ergebnisse und Erfahrungen bei inkompletter Pneubehandlung (Aus der Lungenheilstätte Strengberg bei Puchberg am Schneeberg, N.-Ö. Leitung: Prim. Dr. A. Rad).

著者ハ不完全氣胸ノ場合、出来ル丈ケ保護的ニ、反復シテ氣胸ヲ試ミルコトヲ推奨シテキル。

著者ハ不完全氣胸ノ 18 例ニ就テ氣胸ヲ行ヒ、コノ内 8 例ハ良好ナ成績ヲ得タト云ツテキル。著者ハ氣胸施行ニ際シテハ、少クトモ 2—3 箇所ノ異ル場所ヲ試ミルコト。又比較的長イ間隔ヲ置イタ後テモ反復シテ試ミルコト。少量デモ空氣が入ルトキニハ他ノ外科的治療ヲ行フ前ニ忍耐シテ氣胸ヲ行フコトヲ推奨シテキル。(東京市療、黒丸抄)

横隔膜神經擦除ノ效果ニ對スル條件

N. F. Bodungen: Über die Bedingungen der Wirksamkeit der Phrenikussexairese (Leiter einer Abteilung im Petrowsky-Sanatorium zu Pustscha-Wodiza (Kiew.)).

横隔膜神經擦除手術ノ效果ハ次ノ理由ニ依リ説明サレル。

1. 一側胸廓ノ容積ノ縮小。之ハ肺、殊ニソノ瘰癧組

織ニ特有ナ牽引力カ侵サレタ部分ノ虚脱ヲ可能ナラシメル。

2. 横隔膜麻痺ニ依ル比較的安靜、及之ニ依ル下部肋骨ノ運動ノ減退。

3. 淋巴竝ニ血流循環ノ變化。

4. 未ダ充分ニ研究サレテキナイガ、交感神經ノ完全障碍ニ依ル植物性神經要素ノ變化。

次ニ、横隔膜神經燃除手術ニ最モ適應スル例ハ、亞急性又ハ慢性ニ經過スル例テ、比較的短時日ニ恢復作用ヲ現ハス例デアル。コノ際空洞ノ大サ竝ニ周圍ノ肺組織ノ性状ガ關係スル。

肋膜ニ癒著ガナイカ、又ハ之ガ鬆疎デアル時ニハコノ手術ノ效果良好デアル。

肺野ノ下ニ存スル空洞ニ際シテ本手術療法ハ人工氣胸療法ニ勝ル。

患者ノ社會的生活條件ガ人工氣胸療法ヲ許サヌ様ナ場合ニハ、コノ手術療法ヲ第一ニ行ハナケレバナラス。

不完全氣胸、又ハ氣胸中止後肺カ再ビ擴ガル可能性ノナイ場合ニハ横隔膜神經燃除手術ハ補助的療法トシテ行ハレル。

横隔膜神經燃除手術ハ、疾患ノ經過ヲ延引セシメ、又完全ナ治療ノ效果ハ最早期待出來ナイガ、他ノ手術療法モ行フコトガ出來ナイ様ナ例ニ對シテ行フト、ソノ病機ノ進行ヲ少クスルコトガ出來ル。

葉間膈體ノ上部ニ位スル空洞テハ、膈體ガ邊緣部テ固定サレテキル爲ニ、横隔膜神經燃除手術ハ適應シナイ。

胸廓成形術ヲ行フ前ニ、右側ニ横隔膜神經燃除手術ヲ行フト、肝臟ガ舉ゲラレル爲ニ、肺ノ水平位ノ虚脱ガ妨ゲラレル。從テ之ハ必要ニ迫ラレズ限り行フ可キテナイ。

進行ノ早イ氣管枝肺炎性竝ニ崩壞性肺炎性ノ型テハ横隔膜神經燃除手術ハ禁忌デアル。

肺ノ周圍ノ臟器、心臟ニ對スル横隔膜神經燃除手術ノ影響ハ未ダ充分ニ説明サレテキナイ。

(東京市療、黒丸抄)

口腔粘膜ノ結核性潰瘍ニ就テ

Jenő Szántó: Über die tuberkulotischen Geschwüre der Mundschleimhaut. (Mitteilung aus der dermatologischen Ordinat des Königin Elisabeth-Sanatoriums, Budapest Direktor: Dr. Oszkár Ország, Königl, ung. Obersanitätsrat)

著者ハ1928—1932年ニ於テ、著者ノSanatoriumノ患者7622例中、26例(3.4%)ニ於テ、口腔粘膜ニ結核性潰瘍ヲ有スル者ヲ見タ。

潰瘍ハ口腔粘膜ノ何處ニテモ出來、好發部位ハナイ(舌8、扁桃腺6、咽頭壁5、齒齦5、咽頭弓4、下唇3、軟口蓋及口底各2、硬口蓋及上唇各1)。

肺結核症ニ於テ、口腔粘膜ニ潰瘍ヲ生ズルコトガ稀ナノハ、皮膚結核症ガ稀デアルト同一ノ原因ニ依ル。即個人的關係ノミナラズ、臟器素質ノ關係ニ依ル。皮膚及粘膜ノ組織免疫、或ハ過敏性ガ少イト云フ理由ニ依ルノデアル。口腔粘膜潰瘍ハ、肺結核症ノ末期ニ生ジ、多クハ喀痰性原因ニ依ル。(東京市療、黒丸抄)

意外ナ知見カ? (KattentidtノZeitschr. f. Tub. Bd. 69, Heft 3ニ於ケル業績ニ對シテ)

W. Curschmann: Unerwartete Erkenntnisse? Zu der gleichnamigen Arbeit von Kattentidt, Zeitschr. f. Tub. Bd. 69, Heft 3 (Aus dem Städt. Tuberkulose Krankenhaus Heilstätte Heidehaus, Hannover).

著者ハKattentidtガ「意外ナ知見」ト云フ標題テ報告シタ論文ニ對シ、疑義ヲ論ジテキル。

即獨逸國內ニ於ケル知ラレテキナイ結核症患者數。結核症患者ノ死亡率。結核症患者發見ニ關スル診査方法。結核症ハ春季ニ活動性トナリ、活動性結核症患者ハ夏季ニ多ク發見セラレルト云フ問題、及其他ノ諸問題ニ關シテKattentidtノ説ニ異議ヲ述ベテキル。

(東京市療、黒丸抄)

結論 Herrn Dr. W. Curschmannノ説ニ對スル)

B. Kattentidt: Schlußwort (zu den vorstehenden Gedankengängen Herrn Dr. W. Curschmanns)

前記諸問題ニ關スルCurschmannノ疑義ニ對スル著者ノ討論デアル。(東京市療、黒丸抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 70, Heft 6, 1934.

血行性肺結核症ノ構成竝ニ病理解剖

W. H. Stefko (Moskau): Die konstitutionelle und Pathologische Anatomie der haematogene Form

der Lungentuberkulose.

1. 血行性肺結核症ヲ次ノツニ大別シ得ル、即チ第1ハ粟粒型結核第2ハ病竈ノ極メテ小サイカ、又ハ餘リ

大キクナイ轉移性型ノモノデアアル。

粟粒型ノモノハ、毛細血管網ヲ最初ニ罹ス故ニ形態學上ノ像ガ特有ノ有様ヲ示ス。群居性ノ轉移性ノモノハ、先ヅ内部ノ血管殊ニ主トシテ靜脈ノ内壁ニ附着シテ、壁ニ壞疽ヤ破壊ニヨツテ、潰瘍性血栓性靜脈炎又ハ脈管内膜炎ヲ來シ、續イテ其ノ部ノ肺組織ニ迄進行スルモノナリ、之ニヨツテ始マル病竈ハ直徑0.3—0.5 cm ヨリ 1—1.2cm 位ノ大イサニテ、其ノ中ニハ主トシテ乾酪化シタ物質ヲ充シテ、僅ニ弱イ細胞反應ヲ有スルモ病竈周圍ノ反應ハ殆ンド失ハレテルカ、又ハ極メテ弱ク、然モ此ノ病竈ト周リノ健全ナ肺組織トノ限界ハ明ナリ。

2. 結核性血管周圍炎又ハ内膜炎屢々互ニ結合シテル事アリ、吾々ハ多クノ例ニ於テ血管周圍炎ガ血管内膜炎ニ引キ續イテ起ルノヲ常ニ見ル、然モ此ノ血管周圍炎ハ淋巴管ヲ經テ最初ニ來リテ、循環網ヲ侵ス爲ニ發生スル事多シ。

3. 血行性ノモノハ直グ隣リニアル淋巴型ノモノカラ移行スルモノアリ。 (東京市療、三神抄)

1933年迄ノ結核治療ニ關スル新藥ト新榮養劑ニ就テ

G. Schöder Schönberg: Über neuere Medikamente und Nahrungsmittel über die Behandlung der Tuberkulose (Bericht über das Jahre 1933).

I、特殊性並ニ非特殊性刺激劑

結核ニ對スル防禦作用ハ、網狀織内被細胞系統ノ作用昂進ニヨル、之レガ爲ニ著者ハ自製ノ「ワクチン」ヲ使用スル、免疫ト云フ事ヨリ考ヘテ B.C.G. ハ確ニ有效ニテ、B.C.G. ヲ用フレバ「ツベルクリン」反應陰性ノモノガ陽性ニナル。

「ツベルクリン」ニヨル免疫反應ハ疑ハシイ。結核菌ノ脱脂シタモノ、又ハ滅菌シタモノガ免ノ結核ニ抵抗力ヲ増スト云フガ、著者ノ經驗テハ、此ノ場合ハ「チフス」菌テモ同様ノ效果アリト思フ。

特殊藥ノ最新ノモノニ「リポイド」免疫原アリ、非常ニ效果アリト云フ者アルモ、15% 位ハ副作用ヲ起ス事アリ。滅菌結核菌テ處置シタ牛ノ乳ヲ小兒ニ用フル消極的免疫法ハ效アルラジ。同ジ意味テ肋膜炎ノ浸出液ヲ注射スル事アルモ、此ノ液ノ中ニハ往々菌ガアル故、之レヨリ考ヘレバ積極的ナリ。「カメラ」ヲ非特殊性ノモノトシテ用フル人アリ、多價球菌血清ヲ用フル人アリ。

II、化學療法

金製劑「サノクリヂン」以前程用ヒラレテ居ラネド、猶多少用ヒラレル、殊ニ「サノクリヂン」粉末ガ網狀織内被細胞系統ニ喰ハレテ、此ノ活動力ヲ高メテ細胞ノ免疫ニ對スル力ヲ強メルト云フ。又最近舊「ツベルクリン」ト「サノクリヂン」ヲ併用スル事モ流行スル。

III、藥物療法

祛痰劑トシテ「クレオソート」製劑ナル Si-pneumopan アリ、之ハ鎮咳作用強シ、喉頭ノ刺激ヲ除ク爲ニハ Turiopin ヲ數滴用フレバヨシ、慢性持續性發熱ニ對スル解熱劑トシテ、最モ效アリト思ハレルハ「ピラズルフォ」即チ Amidopyrinsulfosalicylsäures Strontiumデアアル。結核患者テ興奮シ易イ患者ニハ「ルプロカール」即チ K-bromat ト Na-phenylthylbarbitur ノ混合物アリ。

榮養劑トシテハ磷脂體ノ製劑ガ用ヒラレ、之レニハ「ビパン」ガ著名デアアル。

Sternberg 氏等ノ獎賞スル浸出型肺結核ノ石灰療法ハ確ニ效果アリ、内服ト注射ト併用スルハ特ニヨシ。「カルチウムザンドス」ガ最モ良イ、是等ハ同時ニ又血液凝固ニモ應用サレル。体内ニ於ケル Ca ト P トハ平衡ガトレナクレバナラス、此ノ意味ニ於テハ牛乳ノ蛋白ト結合シテル Trikarziumphosphat ガヨイ。

IV、榮養及ビ滋養劑

Vitamin D 即チ Vigantol ハ組織中ノ Ca ヲ活動性トナス。又 Vitamin A ガ結核ノ感染發病ニ對シテ、抵抗力ヲ増ス事ハ多クノ人ノ認ムル所デアアル。S.G.H. ノ減鹽食餌ハ肺結核ノ治療食ノ價值ハナイ、唯皮膚結核ニ於テハ食鹽ノ減ズル爲ト Vitamin 増ス爲ニモ細管壁ノ作用ガ盛ニナリ循環系ノ作用昂進ノ爲效アリ。又減鹽食餌ハ水分代謝ニ效アル故小量ノ利尿劑ヲ併用スレバ更ニ可ナリ。

Insulin モ亦效アリト云フ人アレド、大量ハ不可ナリ、又特ニ糖尿病ヲ有スル結核患者ニテモ 1 日 20E.H. 以下トナスベキデアアル。 (東京市療、三神抄)

人工氣胸術ニヨリ生ゼル胸廓内漏出物ノ最良治療法

Paul Starcke (Stuttgart): Die beste Therapie der Brustfellergüsse beim künstlichen Pneumothrax. 人工氣胸術施行中ニ浸出液ノ發生スル事ハ屢々アル事ニテ、患者ノ豫後ニ及ボス影響ハ種々ナリ。醫者モ患者モ氣胸ノ合併症トシテ考ヘテル、伊太利人ニヨル

バ約 50%、亞米利加人ニヨレバ 68%ハ浸出液ヲ生ズト云フ。浸出液ハ無菌的ト有菌的ノ二種ニ區別ス。大多數ハ無菌性ノモノニテ、第 1 回ノ最初ノ施術後既ニ初マル、之レハ治療ハ先ツ第一ガ安靜ニテ、安靜ニ保チナガラ「アスピリン」ヲ與フルガヨイ。比較的大量ノ時ハ濕布ヲ用フルモ可、餘リ大量ノ時ハ穿刺シテ續ケテ後へ液ト相當量ノ空氣ヲ入レテ、内壓ノ變化ヲ防グ、併シ實際ニ於テ氣胸ノミニテ病勢ノハカバカシカラヌ患者ニ浸出液ヲ發生セル爲治療ニ向ヒタル例モ多クアリ。有菌性ノモノハ、又結核菌ノミニヨル純ノモ

ノト、混合傳染ニヨルモノトアリ、是等ノ場合ハ 2% Rivanol, 2% Lugol, 1% Subkutin, 0.02% Metaphan, 2—5% Gomenol テ洗滌スル、殊ニ效多キハ發病ノ初期ニ洗滌スルナリ。最モ治療ニ困難ナルハ肺臟ニ穿孔シテ混合傳染セルモノナリ、此ノトキハ唯絕對安靜ニシテ、肺臟ヲ虚脱ノ状態ニ置キ、此ノ孔ノ塞ツテ瘻痕形成ヲ來スヲ待ツテ、夫レ夫レノ處置ヲトルベキナリ。此ノ場合若シ孔が大ナレバ洗滌スル事ニヨツテ、穿孔ヨリ肺臟へ洗滌液ヲ吸入シテ氣管枝肺炎ヲ起ス恐レアリ。
(東京市療、三神抄)

Revue de la Tuberculose 50 Série Tome 1. No. 2. Féb. 1935.

療養所「préventorium」ニ於ケル慢性肺結核經過中ノ赤血球沈降反應

Lonis. Béthoux et Roger. Génin: (La sédimentation globulaire an cours de la tuberculose pulmonaire chronique dans la pratique sanatoriale et préventoriale. Etude comparative de 1500 réactions pratiquées chez 250 Malades 200 femmes et 50 enfants.

200 人ノ婦人及ビ 50 人ノ小兒患者ニ行ヘル 1500 回ノ反應ノ比較研究。

方法ハ Westergren 法ニヨリ 枸橼酸曹達 3 瓦、沸化「ナトリウム」0.8 瓦ヲ溜水 100 瓦ニ溶カシタ溶液ヲ 20%ノ割ニ靜脈血ニ混シテ用ヒル。

約 2 ヶ月毎ニ體重、血沈反應、喀痰中ノ結核菌數(平均一視野數)ヲ曲線ニ取ツテ觀察スルニ沈降速度ノ減少ト體重増加ハ殆ド規則的ニ一致スルガ結核菌數ト沈降速度ハ無關係ノ事ガ多イ、結局赤沈反應ハ肺局所ノ状態ヨリモ全身的、體液の状態ノ影響デアル。肺結核末期ニ沈降速度ノ減少スルノハ血液ノ無酸素状態ニヨラシイ。

結核患者ガ妊娠スレバ 3—4 ヶ月目カラ沈降速度ハ増大スルガ分娩ト共ニ急速ニ減少スル。

小兒ノ沈降速度ハ成人ニ比シテ少デアル、平均價ガ 2—3 デアル。成人ノ如キ型ノ肺結核ヲ有スル小兒ノ沈降速度ハ成人ト同様ニ増大スルガ腺結核テハアマリ増大シナイ。(今村内科、梅谷抄)

肺結核患者ノ横隔膜神經切斷術又ハ同神經内「アールコール」注入法ノ末梢靜脈血壓ニ及ボス影響

I. Vasilescu: L'influence de la phrénicectomie on de l'alcoolisation du nerf phénique an coms de la tuberculose pulmonaire sur la pression veineuse

périphérique.

方法ハ H. Claude ノ壓力計ヲ用ヒ Maurice Villaret (la pression veineuse périphérique Masson 1930)ニヨル方法ニヨル、即チ患者ノ枕ヲセズニ全ク水平ニ寢テ腕ヲ心臟ト同水平面ニアル如クサシ出ス。ソシテ正中靜脈内ニ筋肉内注射ニ用フル位ノ太サノ針ヲ入レテ測定スル。末梢靜脈血壓ハ殆ド一定テ Villaret ニヨルト最高動脈血壓ノ $\frac{1}{30}$ デアル。

結果ハ横隔膜神經切斷後ニ靜脈血壓ハ屢々上昇スルガハ横隔膜ガ上昇シタ爲トハ限ラヌ、横隔膜ノ上昇ガナクモ靜脈壓ノ上ル事ガアル、横隔膜ノ上昇ガ著明テモ靜脈壓ノ變化ノ著明テナイ事ガアル。

即チ横隔膜神經切斷ノ靜脈壓ニ及ボス影響ハ不定デアル。横隔膜ガ麻痺セルノミテ上昇シテ居ナイノニ植物性神經系統ニ何カノ變調ガアツタト見ラレル場合ガアツタ、其ノ證據トシテ急性肺浮腫が見ラレタ。肺結核ノ同手術ニヨル治療作用ハ横隔膜ノ上昇ニヨリ直接或ハ間接ニ植物性神經系統ニ起ル變化ニヨリ生ズル血行變化ニ由ルノデアラウ。(今村内科、梅谷抄)

潜伏性結核性腹膜炎

At. Janas: La Péritonite tuberculeuse latente.

2 例ノ若年女子ニ於テ急性蟲樣突起炎ノ爲ニ開腹セルニ蟲樣突起炎ノ他ニ腹水多少アリ、之ヨリ動物接種ニヨリ結核菌ヲ證明シタ、故ニ潜在性結核性腹膜炎ガ存在スル。兩者ハ共ニ殆ド恢復セル結核性關節炎患者デアル。(今村内科、梅谷抄)

胸廓鏡ニヨリ確メラレ次ニ穿孔セル肋膜下結節

Jacques Arnand: Tubercule sous-pleural Constaté à la pleuroscopie et secondanement perforé.

胸廓鏡ニヨリ 1 糞大ノ結節ヲ肋膜下ニ發見シ後ニ膿

胸ヲ起シテ死亡セル1例ヲ剖檢セルニ先ノ結節が穿孔シテ居タ、次ニ同様ナ結節ノアルノヲ1例見タガ之モ後ニ臆胸ヲ起シタガ此ノ例ハ未ダ死亡シナイガ恐

ラクハ結節ノ穿孔ニヨルノデアラウ。

(今村内科、梅谷抄)

Revue de la Tuberculose 50 Serie-Tome 1. No. 3.

高地ニテ治療セル肺結核患者ノ血液學的研究

H. Boucher: Recherches hématologiques chez les tuberculeux pulmonaire traités en haute altitude.

肺結核患 200 人ニ就イテ調査セルニ結核性貧血ハ血色素ト赤血球が共ニ減少シテ血色素係數ハ不變デアアル。高地ニ於テハ貧血恢復ニハ2型ガアル、一ハ最初血色素ニ變化ナク、血球數が増加スル。3—5ヶ月経テ今マテ不變デアツタ血色素が可成リ急速ニ増加シ平常値ニナルガ7—12ヶ月ニシテ其ノ増加ハ少クナル、シカルニ血球ノ増加ハ常ニ規則的ニ平常價ヲ超過スル事ガ屢；アル、此ノ型ニ入ルモノハ95%デアアル。

他ノ型ハ血色素ハ初メ不變テ血球が急ニ増加シ時ニハ數時間ノ内ニ平常價ヲ超過シテ700萬ニモ及ブ。次ニ減少シテ約8日ノ内ニ平常價ニカヘル。ソノ後再び徐々ニ増加スル、此ノ時ニハ血色素モ徐々ニ増加シテ行ク、此ノ型ニ入ルモノハ5%デアアル。高地療法ハ結核ノ貧血ニ193例ニ於テ有效デアツタ。血色素赤血球ノ相當ノ減少ヲ見タモノハ豫後ガ惡カツタ。

Retikulozyten 數ハ殆ド全部ニ於テ急速ニ増加シ高地ニ來テ2週間ニシテ成熟赤血球100ニ付7個ヲ數ヘルモノガ屢；アル。但シ其ノ後 Retikulozyten ハ段々減少シ1ヶ月ニシテ平常價ニ戻リ其ノ後ハ出血デモナクレバ増加シナイ。有核赤血球ハ殆ド見ラレス。

(今村内科、梅谷抄)

結核激發ニ關スル臨牀上ノ備考

H. Edel: Remarques cliniques sur la ponssée tuberculeuse.

療養所ノ患者326名中91人ニ於テ117回ノ結核激發

(急激ニ新シイ、或ハ潜伏性ノ病氣ノ發現)ヲ觀察セルニ104回ハ肺ニ關係セルモノ13回ハ肺以外ノモノテ内85回ハ古イ病巢ノ活動テ19回ハ新ナル血行撒布デアアル。

年齢的ニ見ルト20歳以下ニ最も多ク年齢ノ進ムニ從ツテ減少スル、病型ヨリ見ルト兩側空洞型ニ最も多ク、一側空洞他側播種型、一側空洞型早期型増殖型ノ順デアアル。四季トノ關係テハ春秋ニ最も多イ、人工氣胸ヲ行ヘル105人中32.5%ニ之ヲ見タ、即チ14例ハ肺ニ2例ハ肺以外ニ15例ハ肋膜ニ起ツタ、此ノ頻度ハ全體的ノ頻度ト大體變ハラヌ。

激發ノ結果ハ73%ハ完全ナル恢復テ18%ハ浸潤ヲ殘シ9%ハ實質消失ヲ伴フ乾酪化デアアル。

(今村内科、梅谷抄)

ボケー、ネーグルノ Antigène méthylique ノ實驗的臨牀的使用

Robb Spalding Spray, Ph. D.: Emploi expérimental et clinique de l'Antigène Méthylique de Boquet et Nègre.

家兎ニ靜脈内ニ2cc、皮下ニ1cc注射シテモ反應ヲ表サナカツタ。試験感染前ニ Antigène méthylique テ處置シタ家兎、試験感染後ニ處置シタ家兎ハ共ニ對照ニ比シテ長期間生存シ體重減少モ少ナイ。

人體ニ用フルト、反應ヲ表サナイ、腋下腺結核ノ1例ヲ治癒セシメタ、痔瘻例ニ於テモ速カニ治癒シタ。無熱性肺結核ニ於テハ食慾體重増加、咳嗽ノ減少ハ著明デアツタ。

(今村内科、梅谷抄)

會報並雜報

○第14回日本結核病學會總會宿題報告並特別講演

第14回本會總會ニ於ケル宿題報告並特別講演左ノ如シ。

宿題報告

結核ノ病理

東北帝國大學教授 木村 男也